

# 2017 年度事業計画書

(2017 年 4 月 1 日 ～ 2018 年 3 月 31 日)

健康科学ビジネス推進機構

# 2017 年度事業計画書

## I 基本方針

### 1. 2016 年度の取組み内容

- 2016 年度は、「第 3 回健康科学ビジネスベストセレクションズ」として、昨年度に引き続き、優れた健康関連の取組みを 18 件選定し、「健康科学ビジネス創造フォーラム」等で広報すると共に、「産学連携ヘルスケアナレッジセミナー」といった活動にも積極的に取り組み、当機構の活動を更に内外に広めるべく事業展開を進めて参りました。
- また、日本財団の「SIB 案件組成事業」による助成を受けて、民間の知恵やノウハウを活用し、社会的課題の改善と公的コストの削減を目指す「ソーシャル・インパクト・ボンド」の仕組みを、保健医療分野で日本初めて取り組みました。(がん検診受診では世界初です。)
- さらに、エビデンスに基づく製品・サービスの普及を目指し、会員からの相談等に対応する常設窓口を継続、エビデンスの構築支援を行いました。  
(相談件数：1 件。うち技術相談：1 件)

### 2. 健康関連分野を取り巻く環境と直近の動向

- 健康関連分野を取り巻く環境としては、政府において、健康医療分野が日本再興戦略の重点分野に位置づけられ、健康・医療戦略が策定されるなど、成長分野として期待が高まっております。
- 関西の動きとしては、2015 年より、関西経済連合会が主催する「財界セミナー」を起点に、健康・医療産業の飛躍を目指して「関西健康・医療創生会議」が運営されています。
- また、「健康生き活き羅針盤・リサーチコンプレックス」や関西文化学術研究都市推進機構「けいはんなリサーチコンプレックス」なども 2019 年を目途に推進されております。その 2019 年からは 3 年連続して、「ラグビーワールドカップ」、「東京オリンピック」、関西経済界がバックアップする「関西ワールドマスターゲームズ 2021」、と「健康」、「予防」に密接に関連している「スポーツ・運動」をテーマとしたイベントが開催されます。

- さらに、2025年に大阪での開催を目指す国際博覧会（万博）について、誘致活動を中心的に担う官民による誘致委員会が設置され、会長に経団連会長が就き、博覧会国際事務局（B I E）総会で開催地が決まる2018年11月に向けて活動を本格化させています。この中の重要なテーマのひとつに、当機構の役割が深く関わっています。

### 3. 当機構における課題と対応策

- 当機構の取組みはこれらに先駆ける形で設立し今日に至っておりますが、その取組みの過程では様々な課題を有していることも事実であります。
- まず、エビデンス構築支援事業については、相談件数は伸び悩み、認知・利用促進を図るべく、2015年度より「健康科学ビジネスベストセレクションズ」にて連携を開始した九州・中部・北陸等、各地域の経済団体およびヘルスケア関連団体等への広報活動を継続・強化する必要があります。
- 次に、ビジネス創出および推進支援事業における「事業化コンソーシアム」の取組みは、それぞれ参加者が限定的（少数）という現状であり、より幅広く参画いただけるオープンイノベーションを創出するべく、企画・運営の見直しが必要です。機構の産官学医に及ぶネットワークを活用するとともに、会員を中心としたフォーラム・セミナーの参加者のシーズ・ニーズを汲み取り、共通テーマによるコンソーシアム組成の活発化が必要です。
- また、「ベストセレクションズ」については、機構の知名度向上、会員の事業展開に一定の貢献がありますが、応募者のメリットの充実と各地域の経済団体やヘルスケア関連団体とも連携した取組みを継続し、ベストセレクションズやエビデンスの取組みの更なる周知及び機構の知名度向上が必要であります。
- 「ベストセレクションズ」を通じて、関西地域だけではなく中部・北陸圏～九州圏まで、より幅広い地域と連携した取組みを実現していますが、今後、当機構の取組み全般においてもこれら各地域との連携を深めると共に、取り扱い対象分野を広げる等、当機構の事業活動を充実させ、より多くの企業・団体が本機構に参画いただき、自立的な運営を目指す必要があります。

### 4. 2017年度の取組み方針

- こうしたことを踏まえ、2017年度は、2016年度事業を継続・発展するとともに、オープンイノベーションをより一層拡大・深化させ、会員向けサービスの向上や当機構の価値向上に資する取組みの実施を目指します。

- 特に、各会員の取り組み紹介などの情報発信を強化するとともに、会員内の情報交換会を企画して機構内の活性化を図ります。また、大学など特別会員の研究・取り組み情報をインデックス化して、情報発信することにより、機構本来のワンストップ・プラットフォーム機能を強化してまいります。
- さらに、大阪健康寿命延伸産業創出プラットフォーム（大阪府商工労働部・OKJP事務局）とヘルスケア産業の創出・振興イベント（2017年12月予定）と、健康科学ビジネス創造フォーラムを共催して、万博誘致機運の醸成と事業創出、全国への情報発信拡大を図ります。
- また、SIB事業の普及を通じて市町村への独自のネットワークを構築することで、ヘルスケア業界における機構の存在感を高めてまいります。
- このような取り組みを通じて、健康科学分野における大学等研究機関、医療機関、行政、企業とのさらなる連携と会員による活動展開を活発化させ、健康科学分野における新しいビジネス創出に貢献し、関西の健康科学ビジネス、ひいては日本の健康科学ビジネスの発展に寄与して参ります。

## II 活動計画

### 1. 健康科学におけるエビデンス構築支援事業

関西におけるライフサイエンス関連の研究開発のポテンシャルを最大限発揮し、エビデンス（科学的根拠）獲得システムやその評価システムを確立するため、エビデンス構築に関するコンサルティング、エビデンス評価支援、エビデンス評価の標準化に向けた取り組みを継続実施します。

#### ➤ 2017年度の取り組み

##### 1) エビデンス構築支援の継続

エビデンス構築に関する技術的相談や構築されたエビデンスの評価を今後も継続し、迅速な対応・運営に取り組みます。

##### 2) 広報活動の強化

より一層エビデンス構築への取り組みを普及させるため、「健康科学ビジネスベストセレクションズ」の取り組みにて連携した各地域の経済団体・ヘルスケア関連団体および関連学会等の関係機関と連携し、利用促進を図る広報に取り組みます。

### 3) 支援体制の強化

適正・公正なるエビデンス評価審査と円滑な評価システムの運営を「健康科学推進会議等」(※)と連携して取り組み、会員へのエビデンス評価の支援体制の充実を図ります。

(※健康科学推進会議およびその下部組織の健康科学評価・標準化研究部会等)

### 4) 新たな分野への取り組み

会員からの要望および2015年4月より開始された機能性表示食品制度に応じて、取り組み対象とした分野(食品・化粧品・運動、等)について、引き続き取り組みを行ないます。

## 2. 健康科学ビジネス創出および推進支援事業

健康長寿社会の実現において、新しい健康科学ビジネスの創出とそれらビジネスを大きく成長させることが必須と考えられています。その基盤となる健康科学分野におけるビジネス創出の支援、実証試験・テストマーケティングの支援、健康科学ビジネスの広報支援の実施は重要な位置付けとなります。

2017年度については、各地域との連携により当機構の取り組みの“見える化”実現・認知度向上に大きな役割を果たしている「健康科学ビジネスベストセレクションズ」を軸として取り組み、同時に、その他取り組みについても、機構内のネットワークを活性化すべく“垂直展開”することに加えて、活動エリアを維持すべく、“水平展開”を図って参ります。

### ➤ 2017年度の取り組み

#### 1) 健康科学ビジネス企画・開発支援

健康科学ビジネスの企画・開発に関する支援のため、機構本来のワンストップ・プラットフォーム機能を強化してまいります。各会員の取り組み紹介などの読み物的な情報発信を強化するとともに、会員内の情報交換会を企画して機構内の活性化を図ります。また、大学など特別会員の研究・取り組み情報をインデックス化して、情報発信することにより、会員などが機構のネットワークをより活用しやすい環境を整えます。

#### 2) 「第4回健康科学ビジネスベストセレクションズ」の取り組み

優れた健康的な暮らしを支援する製品・サービスや研究開発・取り組みを選定する「健康科学ビジネスベストセレクションズ」を引き続き、実施します。エントリ

一企業を増やすためにも、新たにエントリー企業のメリット創出を拡大することを目指し、以下2つの取組みを継続します。

- ① 機構の認知を高めるために、各地域の経済団体やヘルスケア関連団体と連携の具体的取組みとして、各団体が主催のイベント、セミナー時において互いの会員への案内はもちろん、その場において取組みなどを紹介する機会の設定。
- ② セレクションズの後援企業・機関の拡大およびセレクションズ選出の実利的なメリットの充実。

#### (1) 2016～2017年度へ向けた取組み

選出された製品・サービス等の発表の場として、引き続き「健康科学ビジネス創造フォーラム」を開催します。大阪健康寿命延伸産業創出プラットフォーム（大阪府商工労働部・OKJP事務局）とヘルスケア産業の創出・振興イベント（2017年12月予定）と共催して、開催内容の充実や万博誘致機運の醸成と事業創出、全国への情報発信拡大を図ります。

#### (2) 運営形態

事務局のリソース（人員・予算）が限られているため、セレクションズからフォーラムまでを2015年度に続いて会員企業の広告代理店への委託を検討。

### 3) 「健康科学ビジネス事業化コンソーシアム」の取組み

健康科学ビジネスに関する国内外の動向や会員ニーズの高い課題等について、機構の産官学医に及ぶネットワークを活用するとともに、会員を中心としたフォーラム・セミナーの参加者のシーズ・ニーズを汲み取り、共通テーマによるコンソーシアム組成の活発化を推進します。

#### (1) 運営形態

会費等の面で容易に参加可能なコンソーシアム運営を希望する参加企業からの複数の要望・意見を受け、2015年度より、従前の「会員制形式」（参加費前金制）から「サロン形式」（都度参加費を徴収）による運営に変更しました。「サロン形式」による運営を継続し、新規の取組みテーマを模索し、企画・推進します。また、2015年度にて共同研究への移行を実現した「子どもウェルネス」について、理研リサーチコンプレックスとの連携を視野に、第二段となる取組みを推進します。

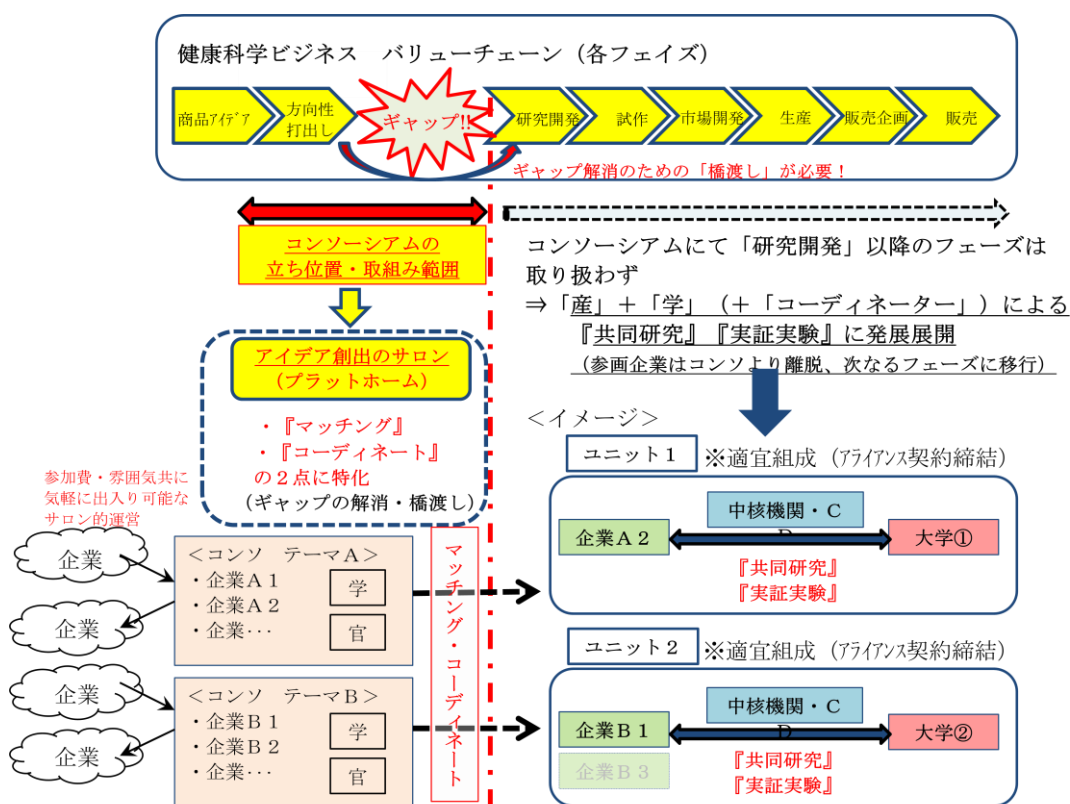
#### (2) 「SIB事業の事業化」の取組み

日本財団SIB導入支援事業を終えて、その成果を足がかりに自治体や会員

企業とコンソーシアム組成を目指すとともに、事業化に向けた取り組みや勉強会を実施いたします。S I B事業の普及を通じて市町村への独自のネットワークを構築することでヘルスケア業界における機構の存在感を高めてまいります。

### (3) 各セミナー・他機関等との連携

当機構にて主催する各種フォーラム・セミナーや、経産省主導の下 2015 年度に設置された「健康寿命延伸産業創出推進事業」（地域ヘルスケアビジネス創出支援：大阪府）と関連する各種セミナー・マッチングイベント等、他機関と連携した取り組みを中心とした活動をおこないます。



### (参考) 事業化コンソーシアムの取組みテーマ

- [2014 年度] 健康医学空間創出、スーパーフード創出、超高感度センシング健康  
生活創出、子どもウェルネス創出
- [2015 年度] 子どもウェルネス創出
- [2016 年度] 子どもウェルネス創出、快適性の追求

### 3. 人材育成・普及啓発、その他の支援事業

健康科学に関連するビジネスの健全な育成のため、健康科学に携わる専門的人材の育成、一般消費者においても親しまれる正しい健康科学分野に関する情報・知識の広報、普及や啓発、また一般消費者に提供するエビデンスに基づいた客観的な情報の提供や健康づくりへの支援を行います。

#### ➤ 2017 年度の実施計画

##### 1) 「健康運動セミナー」の実施計画

2013 年度より実施している『健康運動セミナー』を継続開催します。

(健康づくりに従事される保健師・看護師・管理栄養士等、専門職の方々を対象に8月、10月の2回開催を予定)

##### 2) その他実施計画 (啓蒙活動・情報発信、等)

- ・会員への広報・普及や啓発、一般消費者向けに健康科学に関連する情報の提供としてホームページにおけるニュースの掲載やメールマガジンを配信 (2回/月程度) し情報発信を実施します。(継続実施)
- ・また、機構の信用度の向上、補助金・助成金の申請および行政からの委託等を見据えて、法人化の検討を始めます。

以上